

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、キリスト教を教育の基盤として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性を涵養し、もって人類の福祉と文化の発展とに貢献する有為の人物を育成することを目的とする。

【卒業の認定に関する方針】

本学の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士の学位を授与する。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 豊かな人間性と社会性を捉える総合的視点と知識を身につけている。
- 1-2) 専攻する学問分野における基礎的知識を修得している。

DP2【技能】

- 2-1) 多様な人々と相互理解を図ることができる。
- 2-2) 論理的に思考し、判断することができる。
- 2-3) 専攻する学問分野における技術を身につけ、社会で活用できる。

DP3【態度・意欲】

- 3-1) 自己研鑽し、社会に貢献しようとする姿勢がある。
- 3-2) 地域社会における課題を発見し、他者との協働により課題解決を図る意欲がある。

DP4【統合的活用力】

4-1) 専攻する学問分野において獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

英語学科は、異文化理解を踏まえた英語によるグローバル・コミュニケーション能力をもち、国際的視野と地域的視野に立って思考し、自主的に行動できる有能な人材を育成することを目的とする。

【卒業の認定に関する方針】

英語学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（人文学）の学位を授与する。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い専門的知識を身につけている。
- 1-2) 英語に関する豊かな知識を身につけている。

DP2【技能】

- 2-1) 高度な英語運用能力を身につけている。
- 2-2) 現代社会の諸相や諸課題について論理的に考察し、状況に応じて適切に判断する力を身につけている。
- 2-3) デジタル環境を活かし、効果的な情報活用力を身につけている。

DP3【態度・意欲】

- 3-1) 専門的知識・能力を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度を身につけている。

3-2) 社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たし、他者と協働しようとする態度を身につけている。

DP4【統合的活用力】

4-1) 修得した知識や技能、態度を実践で活用する力を身につけている。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

【教職課程の理念】

西南女学院大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、キリスト教精神を具現化した建学の精神である「感恩奉仕」を教育の基盤としている。「感恩奉仕」とは、神の恩寵の中に生かされていることへの感謝を意味する「感恩」と、隣人への愛を意味する「奉仕」により構成される。この建学の精神は、人々の結びつきがより大きな課題となる現代社会を生きるための指針となるものである。西南女学院大学は、この精神の上にならって、広く知識を授け、深く専門の学芸を探求するとともに、豊かな人間性と社会的責任感を涵養し、もって人類の福祉と文化の発展に貢献する有為の人間を育成することを教育目的としている。

【目指す教師像】

本学教職課程では、以下の5つの観点から教員養成を行う。ここに挙げた資質能力は、これからの学校教育を担う教員にとって必要不可欠なものである。また、これらの資質能力は、免許取得の時点で完成されるものではないことを認識し、卒業後も、教職生活を通じて常に成長し続けるための基盤を作ること为目标としている。

- 1 使命感・責任感・教育的愛情のある教師
- 2 高い専門性に基ついた判断力・指導力のある教師
- 3 社会の変化や教育現場での問題に対応できる教師
- 4 豊かな人間性と社会性を持ち、同僚・保護者・地域・各種機関と連携・協働ができる教師
- 5 常に学び続けることができる教師

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【英語学科における教職課程の理念】

現代社会において、グローバル化と情報技術の進展により、教師に求められる知識、能力、資質はますます多様化している。特に英語は、英語圏のみならず、世界の非英語圏においても国際的なコミュニケーションの主要なツールとなっており、情報の大部分が英語を介して発信、受信されている。このような社会背景の中、英語学科では、英語科教員に必要な能力として、英語という言語そのものに関する深い知識や洞察力に加えて、さまざまな場面で英語を用いて円滑に意思疎通を図る実践的コミュニケーション能力を身につけさせることを目標としている。さらに、国際社会において有意義な対話を行うための基盤づくりとして、異文化理解の姿勢を持ち、世界の多様な文化や社会に対する関心を深めると同時に、自文化についての客観的な理解や、自身の意見を明確に発信できる力を育成している。これらの能力は、小学校・中学校・高等学校での英語教育において児童・生徒を指導する際に必要な専門的知識・技能となる。

こうした能力は、大学内での学習だけでなく、海外留学や国内外でのインターンシップ、ボランティア活動などを通じて実践的に培うことが効果的であるため、本学科では学生が主体的かつ自律的に実践的な活動に関わることを奨励している。さらに、デジタル技術を積極的に活用し、海外の人々と交流したり、情報を発信したりする姿勢を育てている。

英語教育を通じて次世代を担う子どもたちを育成するためには、教師自身が常に学び続け、成長し続ける姿勢を持つことが不可欠である。英語力や国際感覚の向上を図ることはもちろんのこと、児童・生徒が社会で活躍するための基礎力や生きる力を育むことも、英語教師の大切な役割である。将来教師となる際にその支援ができるよう、大学在学中に学生自身が学び、成長し続けることを実感できる機会を提供することを重視している。また、学校教育は地域社会との連携のもとに成り立つものであり、地域とのつながりを意識した教育活動を推進することも求められる。地域との関わりを通して学生が地域の特徴や課題を発見し、その解決に向けて自分がどのように貢献できるかを経験する機会を支援している。

以上のように、本教職課程では、専門教育に関わる基礎的な知識や理論を踏まえながら、地域社会や国際社会との関係性を構築するためのコミュニケーション能力や他者理解を育成し、デジタル機器を活用した情報収集や分析能力も含め、新たな課題に柔軟に対応できる力を伸ばさせることを目指した教員養成を行っている。このような環境の中で、児童が楽しみながら言語や文化を体験的に理解し、コミュニケーション能力を身につけられるよう導くことができる小学校教員を養成したいと考えている。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【英語学科：小二種免】

英語学科では大学の教育目的、学科の教育目的を実現するため、少人数教育やネイティブスピーカーの講師によるコミュニケーション教育を重視し、実践的な英語能力の育成を行っている。さらにキリスト教を背景とした科目やチャペル、外国文化の体験等を通して、異文化理解を深める教育も実施している。異文化に直接触れる重要な体験として3週間から1年間までの様々な留学制度や、オーストラリアの教育施設での短期インターンシッププログラム等を準備している。これらのカリキュラム及び学習環境により、「卒業の認定に関する方針」に定められた高度な英語活用能力を持ち、国際的な視野を持つ幅広い専門性を持った人材を輩出している。

本学の所在地である福岡県において、小学校は711校、北九州市では127校設置されており、多数の小学校教諭が求められている。北九州市では以前より一部教科担任制を導入しており、その有効的な実施のためには中学校と小学校の両方の免許の取得が課題となっている。全国的にも教育現場において専科指導が取り入れられている状況において、外国語についての専門的な知識や異文化理解、実践的な英語コミュニケーションについての技能を持ち、中学校教諭の免許を有する小学校教師を養成することは、今後の英語教育の充実には欠かせない課題である。さらに、子どもの発達や言語習得の観点からも、小学校・中学校・高等学校の連携を視野に入れた教育の構築が重要である。また、他教科との連携の必要性も高まっており、英語学科で培われる地域社会への深い理解や国際的な視野をもった思考力は、多様化する教育や早期化する英語教育、社会のニーズに対応できる小学校教員育成において、大きな意義があると言える。

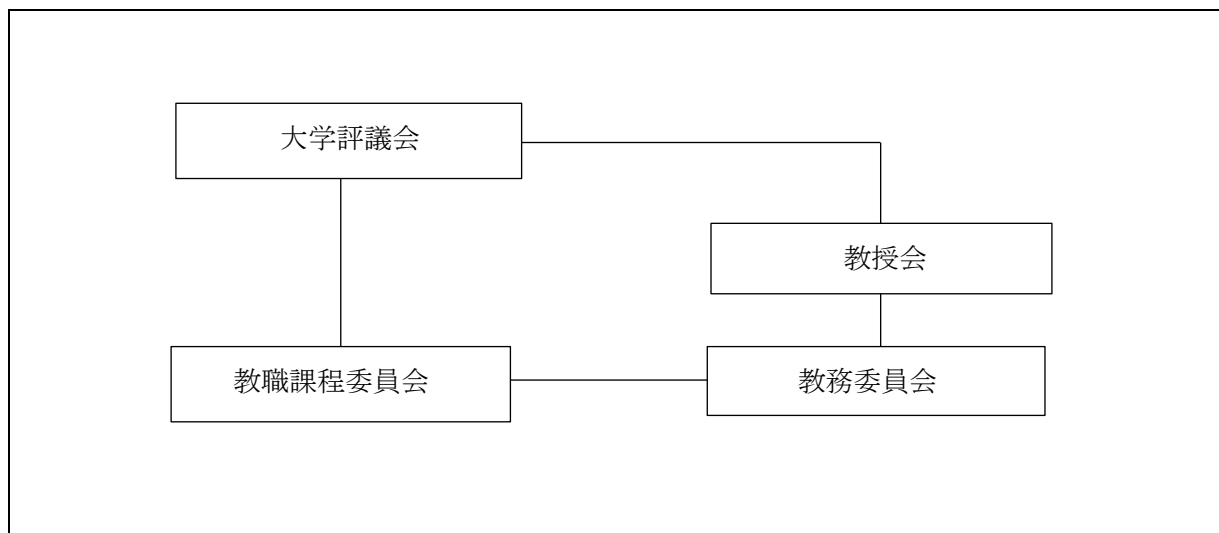
英語学科に小二種免を設置することにより、外国語についての知識や異文化理解、実践的な英語コミュニケーション能力があり、小学校と中学校（英語）の両方の教員免許をもつ教員を養成することで、地域的、社会的ニーズに応えることができると考える。また、本課程を設置することにより、本学では大学全体で小二種免、中一種免（英語）、高一種免（英語）、高一種免（看護）、養一種免、栄一種免の課程が設置されることになる。異なる専門性を持ち、それぞれの教員免許取得を目指す学生たちが、共に学ぶことで、学校現場で共に働く仲間としての意識を育むことができる環境を作ることは重要であると考えられる。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職課程委員会
目的：	教職課程委員会は、次に掲げる事項を審議する。 ①教職課程の編成、講義及び実習に関する事項 ②その他教職課程に関する事項
責任者：	教職課程委員長
構成員(役職・人数)：	教務部長(1名) 教務課長(1名) 教職課程担当者(各学科より1~2名)
運営方法：	<p>本学では、西南女学院大学保健福祉学部、人文学部、西南女学院大学短期大学部に設置している教職課程を統合的に運営するために、「教職課程委員会」を組織しており、教職課程委員長(1名)、教職課程副委員長(2名)を互選により選出している。</p> <p>本委員会は、年2回程度開催し、教務部長を構成委員としていることからわかるように教務委員会と連携して教職課程の円滑な運営を図っている。教職委員会での決定については、各教授会で必要に応じて報告されている。</p> <p>教職課程委員会に関する事務は、教務課において処理する。</p>

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

本学では、北九州市及び近隣市町村の国公立大学(短期大学を含む。)、北九州市教育委員会所管の各学校種の校長会会長、並びに、北九州市教育委員会で組織される『北九州地区大学教育実習連絡協議会』に加盟しており、年1回開催される会議に参加し、当該年度の各大学における教育実習の取り組みや、各校長会より教育実習現場での問題点・総括の報告、教育委員会の総括報告が行われ、その後、教職課程全般にわたり意見交換等を行っている。

様式第7号イ

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	学生サポーター制度（福岡市教育委員会）
連携先の調整方法：	「派遣及び受け入れに関する協定書」（福岡市教育委員会との協定）に基づき、福岡市教育委員会が所管する学校と受入調整を行い実施する。
具体的な内容：	学生の余暇時間（長期休暇、放課後等）に福岡市教育委員会が設置及び管理する学校において、教育活動に参加させることにより、就業体験や学校ボランティア活動を行う。この取組みについては、福岡市の学校教育の活性化を図ると共に、本学が推進する地域連携や地域貢献の実現、及び、学生の資質や能力の向上に資することを目的としている。

②

取組名称：	教員をめざす学生の学校体験制度（山口県教育委員会）
連携先との調整方法：	「教員をめざす学生の学校体験制度 実施要項」に基づき、山口県教育委員会が連携する学校と受入調整を行い実施する。
具体的な内容：	原則として9月に、期間は1週間を超えない範囲で、山口県教育委員会と連携する学校と希望する学生とが調整し、学習活動や学校行事、部活動及びその他学校教育活動の補助を行う。この取組みについては、教員を志望する学生が早い段階で教員という職の魅力を実現し、教育に対する意欲を高めことができるようにすることを目的としている。

Ⅲ. 教職指導の状況

英語学科では定員60名に対して3名の教職課程担当教員が配置されており、教職課程全体で行うオリエンテーションや教育実習の事前事後指導なども学科をまたいで有機的に連携し、細やかな学生の指導を行っている。

4月には各学年段階のオリエンテーションを実施し、教職への意欲を高めかつ深めるように努めている。

教職を希望している学生については、全学的に共通して各学科において教職担当者を中心に適宜面談を行い、履修カルテや意欲の確認を行っている。その中で、教職への意欲を減退・喪失した学生については、適宜指導を行っている。

専任教員による面談だけにとどまらず、外部講師として地域の現職あるいは退職の教員や園長、さらに卒業生による講話などを企画し、学校現場の雰囲気などを具体的にイメージさせるだけでなく、卒業生と接することによりめざす目標を視認することが教職への意欲を高めている。

3年次では、4年生で採用試験に合格した学生による報告会を実施し、目の前の先輩の経験から採用試験対策の具体策だけでなく、実習や採用試験に臨む姿勢など多くのことを学ぶ機会となっている。

また、教職課程の履修手続き、教育実習や介護等体験、諸行政機関との折衝、採用試験対策などに関わる事務は教務課が担当している。

様式第7号イ

教員採用に関わる情報の受付や学生の周知に関しては就職課が窓口となり、教職課程を担当する教員や就職委員と連携して学生の円滑な教員就職活動を支援している。

採用試験に向けては、教員による指導に加えて、前述の合格者や卒業生による講話や、外部講師による教員採用試験対策講座を春夏に実施している。

様式第7号ウ

＜英語学科＞（認定課程：小二種免）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・「キリスト教と西南女学院のあゆみ」や「初年次セミナー」、「地域活動の基礎」を通して、本学の建学の精神である「感恩奉仕」について理解し、地域におけるボランティア活動や大学での学び方を身に付ける。 ・「チームスポーツ」や「データサイエンス入門」、各種語学科目等を等して、教師として必要な一般知識を理解する。 ・「Foundations (Reading & Writing) I」や「Foundations (Listening & Speaking) I」、「英語の発音とリズム I」を通して、基礎的な英語に関する技能、知識を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・「キリスト教と大学」を通して、本学の教育目的であるキリスト教についての理解を深め、地域で学び、活動するための姿勢・意欲・知識を身に付ける。 ・「生涯スポーツ」や「データサイエンス演習」、各種語学科目等を通して、教師として必要な一般知識を理解する。 ・「教育原理」を通して、教育の理念や歴史等を学び、教師として必要な知識を理解する。 ・「Digital Media I」等を通して、英語における表現方法やICTの活用方法等を身に付ける
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職概論」や「教育心理学」、「道徳教育の理論と実践」を通して、教員の意義や役割、心身の発達や学習の課程、道徳の理論等、教師としての必要な知識を理解する。 ・「英語科教育法 I」や「国語科教育法」、「生活科教育法」、「体育科教育法」を通して、小学校教師として必要な学習指導要領についての理解や指導案の作成方法等を身に付ける。 ・「異文化間コミュニケーション I」や「英語学概論 I」等の専門科目を通して、異文化理解に関する知識や、英語に関するより深い知識を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育社会学」や「教育課程論」、「教育相談(カウンセリングを含む。）」を通して、教育に関する社会的役割や教育課程の意義、教育相談の理論等、教師として必要な知識を理解する。 ・小二種免の教育課程に関する科目ではないものの、英語学科として異文化理解や外国語に関する専門的な知識を身に付ける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育論」、「教育方法論(ICT活用を含む。）」、「生徒・進路指導論」を通して、特別活動等の指導法や特別の支援を必要とする児童等に関する知識を理解し、教育や生徒指導の方法等を身に付ける。 ・「社会科教育法」や「算数科教育法」、「音楽科教育法」を通して、小学校教師として必要な学習指導要領についての理解や指導案の作成方法等を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども英語教育演習」を通して、小学校における外国語教育の意義や基礎知識、指導案の作成方法等を身に付ける。 ・「教育実習事前事後指導(小・中)」を通して、教育実習における意義や目的を理解し、十分な知識を身に付ける。 ・「理科教育法」や「図画工作教育法」、「家庭科教育法」を通して、小学校教師として必要な学習指導要領についての理解や指導案の作成方法等を身に付ける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次に引き続き「教育実習事前事後指導(小・中)」を通して、教育実習における意義や目的を理解し、十分な知識を身に付ける。 ・「教育実習Ⅲ」を通して、小学校での実際の教育を理解し、小学校教師としての知識・理論を実践的に学ぶ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次前期に引き続き「教育実習事前事後指導(小・中)」を通して、教育実習における意義や目的を理解し、十分な知識を身に付ける。 ・4年次前期に引き続き、「教育実習Ⅲ」を通して、小学校での実際の教育を理解し、小学校教師としての知識・理論を実践的に学ぶ。 ・「教職実践演習(小・中)」を通して、4年間で学んだ小学校教師としての学びを振り返り、総合的な学習を行う。

様式第7号ウ（教諭）

＜英語学科＞（認定課程：小二種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の教育法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		Foundations (Reading & Writing) I		チームスポーツ	
			Foundations (Listening & Speaking) I		中国語入門	
			英語の発音とリズム I		韓国語入門	
					データサイエンス入門	
	後期	教育原理	Digital Media I		生涯スポーツ	
					日本国憲法	
					英会話入門	
					中国語発展	
					韓国語発展	
					データサイエンス演習	
2年次	前期	教職概論	異文化間コミュニケーション I			
		教育心理学	英語学概論 I			
		道徳教育の理論と実践	英語文学 I			
		英語科教育法 I	遊びを通して学ぶ体育			
		国語科教育法				
		生活科教育法				
		体育科教育法				
	後期	教育社会学				
		教育課程論				
		教育相談(カウンセリングを含む。)				

3年次	前期	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	音楽で広がる表現の世界	教育ボランティア演習		
		特別支援教育論				
		教育方法論 (ICT活用を含む。)				
		生徒・進路指導論				
		社会科教育法				
		算数科教育法				
		音楽科教育法				
	後期	教育実習事前事後指導 (小・中)	こども英語教育演習			
		理科教育法				
		図画工作科教育法				
家庭科教育法						
4年次	前期	教育実習事前事後指導 (小・中)				
		教育実習Ⅲ				
	後期	教育実習事前事後指導 (小・中)				
		教育実習Ⅲ				
		教職実践演習 (小・中・高)				